



平成 30 年 10 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社ビットワングループ
 代表者名 代表取締役社長 高橋 秀行
 (コード番号 2338 東証第二部)
 問合せ先 取締役管理部長 村山 雅経
 T E L 03-5360-8998 (代表)

平成 31 年 2 月期における第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と実績値 の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当期(平成 30 年 3 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日)の第 2 四半期連結累計期間決算における平成 30 年 4 月 10 日に公表しました当第 2 四半期連結累計期間業績予想と実績値の差異についてお知らせいたします。また、当社は、これを受けて、当期の通期業績予想を修正することを本日開催の取締役会にて決議いたしましたので、併せてお知らせいたします。

1. 当第 2 四半期連結会計累計期間の予想と実績値の差異(平成 30 年 3 月 1 日～平成 30 年 8 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期 純利益	1 株当たり 四半期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	530	△40	△40	△12	△2.26
実 績 値 (B)	354	△164	△205	△157	△22.89
増 減 額 (B-A)	△175	△124	△165	△145	
増 減 率 (%)	△33.2%	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 30 年 2 月期第 2 四半期)	628	△45	△53	△89	△18.63

2. 差異の理由

当第 2 四半期連結累計期間における当社グループは、システムソリューション事業及びアイラッシュケア事業に注力すると共に、事業ポートフォリオの再構築のため、新規事業としてフィンテック事業の立上げを行ってまいりました。

そのような状況の中、売上高減の主な理由としては、フィンテック事業において、マイニングを開始し、香港において仮想通貨取引所の開設を行いました。マイニングについては、仮想通貨の相場の低迷や出来高の激減等、また、仮想通貨取引所については、開設の遅延等によるものです。

また、システムソリューション事業及びアイラッシュケア事業は、いずれも同業他社との競争の激化及び市場の冷え込みが大きく、システムソリューション事業では、予定していた案件の失注が生じ、売上上の予想値を達成することが出来ず、アイラッシュケア事業でも、顧客数の見込減等から、売上予

想を達成することができませんでした。

以上のような理由により、売上高は、予想値 530 百万円と比較して 175 百万円減少（33.2%減）の 354 百万円となりました。

営業利益の差異 124 百万円減につきましては、ほぼ、売上の差異に対応する原価を除いた金額となっております。

経常利益に関しては、当第 2 四半期連結累計期間において、主に新株予約権の権利行使があったため、それに伴う支払手数料を営業外費用として、38 百万円計上したため予想値と比較して 165 百万円減少となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益に関しては、連結子会社である BIT ONE HONG KONG LIMITED（以下「ビットワン香港」という。）単体の四半期純損失が予想より過大であったため、予想値と比較して 145 百万円減少となりました。

3. 当期通期連結業績予想数値の修正（平成 30 年 3 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	1,460	250	250	220	41.51
今 回 修 正 予 想 (B)	1,285	126	85	75	14.15
増 減 額 (B-A)	△175	△124	△165	△145	
増 減 率 (%)	△12.0	△49.6	△66.0	△65.9	
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 2 月期)	1,034	△187	△198	△518	△97.89

4. 修正の理由

当期通期の下期（平成 30 年 9 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日）においては、平成 30 年 4 月 10 日に公表した予想値（以下「当初予想値」という。）と変更ございません。これは、主にフィンテック事業におけるマイニング及び仮想通貨取引所の運営に関して、マイニングに関しては採掘効率の改善対策等を行うことにより、また、仮想通貨取引所の運営に関しては、口座数拡大のためのマーケティングによる対策等を講じることにより、下期においては、当初予想値を達成する見込みがあるためです。実際にビットワン香港においては、本年 9 月より本格的なプロモーションを展開しております。

なお、フィンテック事業においては、受注拡大を狙った取引先との関係強化、アイラッシュケア事業についても、SNS を利用した集客施策をより一層強化することにより当期通期の下期における当初予想値を達成することが可能であると考えております。

従って、「1. 当第 2 四半期連結累計期間の予想と実績値の差異」で記載した当第 2 四半期累計期間で生じた予想と実績値の差異が、そのまま通期の差異となるものでございます。

以 上

(注) 本資料に記載しております業績予想等につきましては、現時点で得られました情報に基づき算定しております。実際の業績は、今後様々な要因により本資料の見通しとは異なる結果となる可能性があります。